

最高の思い出を作る グループ旅行ガイド

スマートな旅の計画術、感動のマリンアドベンチャー、
極上グルメ＆お得な旅のテクニック



幸せあふれるフィジーへ

📍 ワヤ・アイランド・リゾート, ヤサウ諸島

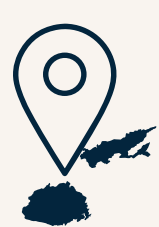
visitfiji.jp



ブラ！

大切な人たちと旅行したいですか？フィジーは、グループ旅行を簡単で思い出深く、そして素晴らしい特別なものにしてくれます。友人同士の旅行、多世代家族旅行、人生の節目を祝う旅行など、フィジーはあらゆる人々を結びつける場所です。プライベートヴィラでの滞在や島での冒険、星空の下でのディナーなど、このガイドでは、シンプルでありながら忘れられないグループ旅行を計画する方法をご紹介します。

フィジーってどんなところ？



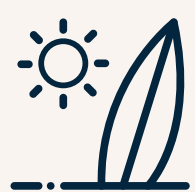
フィジーは 333 の島々を誇ります。主な島はビチレブ島とバヌアレブ島で、その他にマヌザ諸島やヤサワ諸島などの島グループに属する小さな島々があります。



フィジーの人々は、先住民族のイ・タウケイをはじめ、インド系フィジー人、欧州系混血、中国系フィジー人、そして太平洋諸島の少数民族が入り混じった、多文化社会を形成しています。



夏 | 11 月～4 月 (雨季)
冬 | 5 月～10 月 (乾季)
平均気温は 22℃～31℃程度です。



かつてイギリスの植民地だったため、英語、フィジー語 (イ・タウケイ語)、フィジー・ヒンディー語が至る所で話されています。

フィジー人みたいに話してみよう！

BULA (bu-lah ブラ)
こんにちは / やあ

VINAKA VAKA-LEVU
(vi-na-kah va-ka-leh-voo ヴィナカ・ヴァカレヴ)
ありがとう / どうもありがとう

MOCE (moh-they モーチェ)
さようなら

KEREKERE (keh-reh-keh-reh ケレケレ)
お願いします

SEGA NA LEQA (seh-gah nah leh-ga セガ・ナ・レガ)
気にしないで

SOTA TALE (soh-tah tah-leh ソタ・タレ)
また後でね！

幸せあふれるフィジー

visitfiji.jp





フィジーがグループ旅行に最適な理由

思っているよりずっと近い

日本（成田）からはフィジーエアウェイズが週 2 便運航、所要わずか 9 時間です。フィジーエアウェイズは、香港、シンガポールといったアジアの主要都市からも直行便を運航しています。

あらゆるグループに最適な宿泊

プライベートヴィラやリゾートレジデンスから、ブティックホテル、貸切アイランドまで、フィジーは多世代家族や友人グループに最適な素晴らしい宿泊施設を提供しています。多くのリゾートには、静かに過ごせる大人専用エリアも設けられています。

もっとお得に贅沢リゾート

グループでのご旅行は、実はお得な選択肢です。ヴィラをシェアしたり、グループ限定の特別プランや有利な為替レートを活用することで、1人あたりの予算を抑えながらワンランク上の滞在をお楽しみいただけます。

驚くほど簡単に計画できる

多くのリゾートはフィジーへの団体旅行を専門としており、アクティビティ、食事、オーダーメイドの体験の手配をサポートしてくれる専任のコーディネーターがいる場合が多い。経験豊富な送迎パートナーが空港到着、アクティビティへの送迎、離島への移動などを調整してくれるので、グループを目的地までスムーズかつストレスなく移動させることができます。

どなたにも楽しめる

フィジーでのグループ旅行の大きな魅力の一つは、参加者全員で楽しめる多彩な体験が揃っていることです。あらゆる年齢層や好みに合わせたアクティビティが充実しており、グループのメンバーそれぞれが好きな冒険を選んだり、あるいは全員で一緒に体験を共有したりと、思い思いのスタイルで過ごせます。色鮮やかなサンゴ礁でのシュノーケリング、滝へのハイキング、無人島でのピクニック、サーフィンやダイビングへの挑戦、料理教室への参加、フィジアン・スパでのリラックス、そしてお子様向けの素晴らしいキッズクラブの利用など、心に残る思い出を作るための選択肢は尽きません。

フィジー旅行のハードルは低い

直行便と様々なフライト

日本からはフィジーエアウェイズが週2便の直行便が運行されています。その他にもオーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、アジアからナンディ国際空港へアクセスできます。フィジーは便利なハブであり、複雑な計画を立てずに気軽に訪れることができるグループ旅行の目的地です。フィジーは他の太平洋の島国を探索したい場合にも、ここから出発するのが便利です。

アライバルビザ（到着ビザ）

フィジー政府は日本を含む一部の国に対してビザ免除措置を講じており、入国審査時にパスポートと必要書類を提示することで、最大4ヶ月間の滞在許可が付与されます。

フィジーエアウェイズの特典

フィジーのナショナル・キャリアは、フィジー国内の島々を結ぶ国内航空会社（フィジー・リンク）も運航しています。そのため、フィジー到着後の移動も含めて一括での予約が可能です。さらに、ワンワールド・アライアンスのメンバーでもあるため、マイレージポイントを貯める（または使用する）ことができます！

スマートなストップオーバー

フィジーは、太平洋を横断する長距離フライトの経由地として最適です。数日間滞在し、旅の疲れを癒やすことができます。

賢い食生活のコツ

朝食付きの滞在プランをお選びください

朝食付きのプランは、グループ旅行にとって大きなメリットがあります。食事の手配の手間が一つ省けるうえ、全員のスケジュールを合わせやすく、特にご家族連れにとっては日々の食費を抑えることにもつながります。

グループ向けのお得なプランについてお問い合わせください

一部のリゾートでは、グループ向けにセットメニューやテーマナイト、プライベートダイニングなどを、お一人様あたり割安な料金で提供している場合がありますので、事前に確認してみてください。

食事に変化をつけましょう

リゾートでの食事に加え、近隣のカジュアルな地元カフェやテイクアウトも利用してみましょう。そうすることで費用を抑えつつ、グループの皆でフィジーならではの本格的な味を楽しむことができます。

お子様のお食事無料

12歳未満のお子様は、料金を支払う大人の方と同伴の場合、無料でお食事ができます（または割引料金でご利用いただけます）。

実用的なアドバイス

グループの「旅スタイル」をクリアに

あなたのグループは、リラックスしたい、お祝いしたい、それとも冒険を求めているのでしょうか？これを早めに決めておくと、最適な場所や宿泊施設を選ぶのがずっと楽になります。

グループに最適な場所

本土のリゾートは便利で、コストパフォーマンスが高く、食事やアクティビティの選択肢も豊富です。一方、離島のリゾートはより静かで景観が美しく、美しいビーチでは真の無人島体験ができます。

含まれるものをチェックしよう

リゾートによっては、パッケージ料金に食事、アクティビティ、体験などが含まれている場合もあれば、都度払い制のところもあります。簡単なチェックは予算を立てやすく、予期せぬ出費を避けるのに役立ちます。

移動計画は慎重に立てよう

ナンディ空港への到着が遅くなる場合は、ナンディで一泊し、翌日にリゾートや島へ移動することがおすすめです。特に大人数のグループの場合、この方法なら移動がスムーズで、ストレスもありません。なお、夜間は国内線のボートや航空便の運航はありません。

一緒に過ごす時間と一人の休息時間を計画しよう

グループにとって重要な体験をいくつか計画し、その後は各自が自分のペースで自由に探索できる時間を十分に確保しましょう。こうしたバランスこそが、グループ旅行を心から楽しめるものにします。特別な日を祝う場合、多くのリゾートでは、プライベートダイニング、お祝いの席、またはグループに合わせたヴィラでのイベントなど、お客様の体験をパーソナライズするサービスを提供しています。

フィジータイムを満喫しよう

フィジーでは物事がゆっくりと進みますが、それは決して悪いことではありません。地元の人々は「セガ・ナ・レカ（心配無用）」と言います。ですから、時間に余裕を持ち、期待値を少し下げて、このゆったりとしたペースを楽しんでください。



グループ旅行に最適な地域

フィジーにはあらゆるグループのニーズに応える宿泊施設が揃っています。広々としたファミリー向けリゾートから、プライベートヴィラ、島全体の貸し切り、さらにはドミトリタイプの宿泊施設まで、幅広い選択肢があります。家族、友人、同僚など、グループ旅行に最適な地域をいくつかご紹介します。

地域	宿泊施設	アクティビティ
ビチレブ島（本島） ナンディ／デナラウ	大家族向けの大型リゾートや、大人専用エリアを設けたリゾート	内陸部や離島への日帰りツアー。ATVと電動自転車ツアー、ジップライン、料理教室、観光ツアー、VOU文化ショー、フィジー文化村
コーラル・コースト/ パシフィック・ハーバー	大家族向けの大型リゾートや、手頃な価格の自炊式宿泊施設	海と陸のアクティビティ：シュノーケリング、ダイビング、釣り、サーフィン、ジェットスキー、オフロードバギー、滝めぐり、ジップライン、リバーラフティング、リバーチュービング、島やサンドバーへの日帰り旅行、ダモダール・アーツ・ビレッジ
バヌアレブ島 サブサブ	島やブティックリゾートの貸切利用、ウェルネス・リトリート	滝、ハイキング、スキューバダイビング、釣り、シュノーケリング、そして文化
島々 ママヌザ諸島	本島から簡単にアクセスできる、ブティックアイランドリゾート。	島への日帰り旅行、ヨットセーリングのチャーター、数日間のクルーズ。ビーチ、シュノーケリング、ダイビング、サーフィン、釣り、フローティングバー、ビーチクラブ、無人島や砂州の日帰り旅行。
ヤサワ諸島	本島から容易にアクセスできる、島内のブティックリゾート。多くの宿泊施設でドミトリタイプの宿泊施設が利用可能です。	アイランドホッピングに最適な目的地であり、ヨットのチャーターや数日間のクルーズも楽しめます。ビーチ、ハイキング、シュノーケリング、ダイビング、洞窟水泳、マンタやサメとのシュノーケリング、手つかずの自然が残るフィジー。



フィジー滞在中の安全に関するFAQ

水道水は飲みますか？

主要なリゾート地や町では、水道水は一般的に安全に飲用できますが、多くの施設ではろ過水やボトル入りの水の利用がおすすめです。

海水浴やマリナクティビティは安全ですか？

フィジーのほとんどの島はサンゴ礁に守られているため、水泳やシュノーケリングに最適で、離岸流の心配をする必要はありません。天気予報を確認し、公式ガイドと一緒にいき、海洋生物を尊重し、サンゴに触れないようにしてください。

夜間の移動は可能ですか？

陸路での移動は24時間可能ですが、船や国内線は通常、日没後は運航していません。事前に計画を立てましょう。

サステナブルな旅をするための4つの方法

サンゴ礁を守ろう

フィジーで泳ぐ際は、サンゴ礁に優しい日焼け止めを塗り、サンゴの上に立たないようにしましょう。そうすることで、サンゴが元気に育ち、美しい状態を保つことができます。

地元のものを買う・食べる

地元の人々が行く場所に足を運び、地元の職人や農家、レストランを応援しましょう。フィジーの文化や食を楽しく体験できるだけでなく、カーボンオフセットにもつながり、さらにお財布にも優しいのです！

プラスチックにNOを

フィジーにはリサイクル施設がないため、プラスチックの使用を減らすのは当然の選択です。私たちの楽園を美しいまま保つのにご協力ください。マイボトルやマグカップを持参し、ストローは使わず、ビニール袋の代わりにトートバッグを使いましょう。

ロロマ・アワーで貢献しよう

ロロマ・アワーはフィジー流のハッピーアワー……でも、もっと心が満たされる特別な時間です。「ロロマ」とは、寛大な心と愛をもって行動することを意味します。この観光業界の取り組みは、旅行者の皆様にも少なくとも1時間を使っただき、フィジーに良い変化をもたらす活動に参加するよう呼びかけるものです。サンゴ礁でのサンゴ植え付け、村人との伝統工芸学習、あるいは在来の野生動物の保護支援など、どのような活動であれ、ロロマ・アワーはあなたの休暇を本当の意義のあるものに変えてくれます。

グループ旅行のための 持ち物リスト

荷造りチェックリストに以下を追加してください。

衣類

- 薄手のコットンやリネンの服
- 水着、ビーチウェア、帽子
- 日中の散策に最適なリゾートウェア
- 肌寒い夜用（6月～8月）の
軽いジャケットや羽織りもの

お祝いのため

- グループで楽しめるテーマに合わせたアイテム
（お揃いのTシャツ、タスキ、
身につけられる小道具など）
- 宿泊施設向けのテーマ別装飾

探検用品

- リーフシューズ(マリンシューズ)
- ラッシュガードまたは日焼け防止シャツ
- シュノーケリングセット
（ご自身のものを使用されたい場合）
- 防水バッグや防水スマホケース
- 詰め替え可能な水筒

ウェルネス

- サンゴに優しい日焼け止め
- 蚊よけ
- 電解質または水分補給タブレット
- 個人用の薬

あると便利

- ディナー用のきちんとした服装
- 携帯用充電器／モバイルバッテリー
- 小型バックパック／デイバッグ
- サングラス
- 洗濯物を入れる袋(ランドリーバッグ)
- プールサイドでリラックスするのにぴったりの
本や電子書籍
- 「ブラ・スマイル（笑顔）」

幸せあふれる



ブラをシェアしよう！

ハッシュタグ：

#幸せあふれるフィジー

#フィジーハッピー

#フィジー

公式アカウント：

Instagram： [tourismfiji.jp](#)

TikTok： [@tourismfiji.japan](#)

YouTube： [@tourismfijijapan](#)

詳しくはこちらをご覧ください：[visitfiji.jp](#)

